

日本海山陰沖におけるズワイガニ真菌症 (BMS) の発生状況について (要旨)

養松 郁子・廣瀬 太郎・永澤 亨・南 卓志

(日本海区水産研究所)

調査方法

1997年及び1998年に8月から9月にかけて、但州丸(兵庫県香住高校所属)により、若狭湾から島根県沖合にかけての北陸山陰沿岸の40定点(隠岐以西5定点, 隠岐北方10定点, 隠岐以東25定点)及び大和堆でのトロール調査を行い, ズワイガニを採集した. 採集したズワイガニは, 船上で選別した後, 雌雄ごとに甲幅を測定し, 真菌症(Black Mat Syndrome; BMS)の感染の有無を記録した.

結 果

・北陸山陰沿岸

1997年にはBMS感染個体は隠岐以西の2定点のみに見られ, 計12個体(雄11, 雌1)が採集された. 1998年の調査時には, 隠岐以西の4定点で計47個体(雄30, 雌17), 及び隠岐北方の2定点で3個体(雄2, 雌1)が採集された. いずれの年も隠岐以東では感染個体が見られなかった.

1997年に感染が見られた隠岐以西の2定点での定点ごと雌雄別の感染割合(感染個体数/採集個体数)は, 雄が11.6%及び22.9%, 雌はそのうちの1定点で1個体のみ(5.9%)出現した. 一方, 1998年の調査で感染個体が見られた隠岐以西4定点での出現割合は雄が14.3-38.0%, 雌が2.1-43.8%, 隠岐北方では10定点のうち2定点に見られ, 雄は0.5, 4.6%, 雌はそのうちの1定点で1個体(1.2%)の感染個体が採集された.

・大和堆

1997年の18定点のうち10定点で37個体(雄29, 雌8), 1998年は14定点中7定点で計12個体(雄10, 雌2)が出現したが, 両年ともとくに多いという定点は見られなかった. 全定点での採集個体数に占める感染個体の雌雄別の割合は, 1997年は雄が15.0%, 雌11.6%, 1998年は雄11.4%, 雌7.1%であった.

考 察

大和堆では, かなり古くから真菌症の感染率がかなり高いことが言われていたが, 本州沿岸においてもとくに西の方の海域で同様の感染が見られた. 1997, 1998年の調査結果を比較すると, 本州沿岸で, より東の海域への広がりが懸念される結果となった. 真菌症は重傷になると再生産等への悪影響が懸念されるため, 今後の動向に注意を払う必要がある.